

# リマ案内

令和三年3月  
在ペルー日本国大使館

Av. Javier Prado Oeste 757 Piso 15, Magdalena del Mar (Tel : 219-9500 Fax : 498-0930)

## I. リマ市の概要

### 1. 歴史

リマ市は1535年1月18日、インカ帝国征服者であるスペイン人フランシスコ・ピサロによって建設されて以来、首都として約5世紀の歴史を有する。ピサロはこの地を当時のスペイン国王カルロス5世に因んで「諸王の街(Ciudad de Reyes)」と名付けたが、近くを流れるリマック川が訛った「リマ」という名称が住民の間に広まったと言われている。ペルーは、1821年、アルゼンチン人ホセ・デ・サン・マルティン将軍によって286年間のスペイン植民地支配から解放された。

### 2. 風土

リマ市は太平洋岸（標高0～約200メートル）に位置し、気温は年間を通じて比較的温暖で、夏期（11月～4月）の最高気温が30℃、冬期（5月～10月）の最低気温が14℃である（平均は20℃前後）。湿度は一年中を通じて著しく高く、実際の気温より寒暖がより強く感じられる（冬期の最高湿度は90%、年平均では81%）。雨量は極めて少なく、僅か冬期にガルúaと呼ばれる霧雨が主として朝晩に降る程度である。

## II. 観光

リマ市内の観光は旧市街（下記ではDOWNTOWNと記載）・新市街に分かれる。



1	マヨール広場（アルマス広場）	10	ラルコ・エレラ博物館
	大統領官邸	11	考古学博物館
	大聖堂（カテドラル）	12	リマ・ゴルフ・クラブ
	サン・フランシスコ教会	13	天野博物館
	中央郵便局	14	ワカ・プクリャナ遺跡
2	サン・マルティン広場	15	デ・オスマ美術館
3	最高裁判所	16	旧国立博物館
4	美術館	17	競馬場
5	国立競技場	18	黄金博物館
6	アマウタ・コロセウム	19	ロス・インカス・ゴルフ・クラブ
7	カヤオ埠頭	20	闘牛場（アチヨ広場）
8	レアル・フェリペ要塞		
9	レイエンダス公園（動物園）		

## 1. 旧市街（植民地時代市街）

### (1) **マヨール広場（アルマス広場）** (Plaza Mayor/ Plaza de Armas)

住所：Plaza Mayor de Lima, s/n, Centro Histórico

旧市街の中心地。1535年1月18日、リマ建都の日を記念してフランシスコ・ピサロにより造られた市の中心広場で、現在、この周囲には大統領官邸、政庁、市庁舎、大聖堂（カテドラル）、商店などが並んでいる。1821年7月28日、この広場に面した市庁舎において、サン・マルティン将軍がペルーの独立宣言を行った。スペインの植民地時代には、この広場で行われた闘牛を副王が政庁のバルコニーから眺めたとも言われている。広場の名前は2つの名称で繰り返し変わっていて、現在の名称はマヨール広場（Plaza Mayor）であるが、地元の間ではもう一つの名称であるアルマス広場（Plaza de Armas）のほうがなじみ深い。

広場に面する大聖堂は、1535年フランシスコ・ピサロにより建設されたリマ最古の教会である。その土台石はリマ建都の日にはピサロ自身が手を置いた石とも言われ、現存している。正面の木扉をくぐり、すぐ右手の部屋には黄金郷を目指すピサロー行を描いたモザイク壁画とピサロのものと伝えられる遺骸を納めたガラス棺がある。

寺院は1625年に完成したが、1746年の大地震により倒壊した。現存するのはその後には再建されたものである。

大聖堂博物館（Tel：427-9647, Mail：catedraldelima@yahoo.es）

開館時間は月～金曜日の9:00～17:00, 土曜日10:00～13:00, 日曜日13:00～17:00。入場料大人10ソル, 子供（15才まで）2ソル。

### (2) **サン・マルティン広場** (Plaza San Martín)

住所：Plaza San Martín, Centro Histórico

アルマス広場から歩行者専用のユニオン(Unión)通りでつながっている南へ5ブロック、1921年に造られたモダンな広場で、スペイン風にデザインされ、大理石の欄干がある。かつてその周辺は、一流ホテル、映画館、レストラン、航空会社、大商店が建ち並ぶ商業の中心地となっていた。広場の中央には、ペルー独立の勇将ホセ・デ・サン・マルティン将軍の馬上の銅像がある。この銅像は1921年にスペイン人彫刻家マリアノ・ベンリウレが製作したものである。サン・マルティン将軍が4,000の兵士を率いてリマに入り、ペルーの独立を宣言したのが1821年7月28日で、この銅像は独立100周年記念日の1921年7月28日に建立された。なお、議会議事堂の前には、もう一人の南米解放の英雄であるシモン・ボリバル将軍の銅像がある。

### (3) **サン・フランシスコ教会・修道院** (Basílica y Convento de San Francisco)

住所：Iglesia de San Francisco, Centro Histórico (Tel：426-7377)

開館時間：毎日 07:00～11:00, 16:00～20:00（カタコンベは、9:00～20:15）

入場料：大人15ソル, 学生8ソル, 子供3ソル。

アルマス広場のすぐ近く、ランパ(Lampa)通りとアンカシュ(Ancash)通りの角にあり、カタコンベ（地下墓地）で有名である。1542年に建立が開始された。当時の様々な建築様式や技術が見られ、また、内部の天井や壁には繊細な絵画が描かれている。建物の材料、絵画の染料もわざわざ中米から取り寄せたものがあり、贅を尽くした建築により、リマで屈指の教会と言われている。

## 2. 新市街

### (1) **ミラフローレス区** (Miraflores)

ラルコマールをはじめとする近代的ショッピング街、高級住宅地が立ち並ぶ海岸沿いの地域。旧市街の喧騒とは違って変わって落ち着いた街である。白人系の若者、外国人などが集まり、ブティック、レストラン、デパート、カフェはいつも夜遅くまで賑わっている。海岸沿いの「恋人たちの公園」やミラフローレスの中心の「ケネディ公園」と「7 de Junio公園」（2つの公園を合わせて「ミラフローレス中央公園」と呼ぶ。）も賑

わっている。

(2) **サン・イシドロ区 (San Isidro)**

ミラフローレス区と隣接している地区で、やはり新市街の中心となる地域。高級住宅地で、お洒落なレストランやカフェが多い。またこの地区には便利で安全な4つ星、5つ星の高級ホテルも多く、カジノが併設されているホテルもあり、夜は観光客と地元の裕福な人々で賑わう。

(3) **バランコ地区 (Barranco)**

ミラフローレス区と隣接している海岸沿いの地区。植民地風の落ち着いた街で、画家などの芸術家が好む街として有名。海岸にそびえる崖の上から望む夕日は絶景である。海岸沿いにレストラン、バー、カフェなどが多く週末は夜遅くまで若者たちで賑わう。危険な通りもあるため、人気が少ない地域等には近づかないようにする。

### 3. 博物館

(1) **国立考古学・文化人類学・歴史学博物館**

(Museo Nacional de Arqueología, Antropología e Historia del Perú)

住所：Plaza Bolívar s/n, Pueblo Libre (Tel：321-5630 内線5211)

開館時間：月～日曜日 08:45～17:00 (入場は16:30まで) ,

入場料：大人10ソル, 学生・60歳以上5ソル (要身分証) , 子供1ソル (12歳まで)。

入り口より各時代に区分され、説明も図解入りで親切に表示されている。「ライモンディの石碑」等有名な文化財のオリジナルが展示されている。

(2) **天野プレコロンビアン織物博物館 (Amano, Museo Textil Precolombiano)**

住所：Calle Retiro 160, Miraflores (Tel：441-2909)

開館時間：月～日曜日10:00～17:00

入場料：30ソル, ガイドサービス30ソル, 展示していない織物を閲覧できるガイドサービス50ソル (いずれも1グループ10名まで)。

戦後まもなくペルーへ渡り、1920年代より中南米各地で幅広い事業を営んでいた故天野芳太郎氏が、本格的にアンデス考古学に取り組み、個人的に収集した土器や織物を展示するために1964年に設立。2015年に全面的な改修が行われ、土器の展示を中心としていた天野博物館から、アンデス文明の織物に特化した天野織物博物館として、同年5月にリニューアルオープンした。日本語ガイド希望者は事前に電話で対応可能かどうかの確認と予約をする必要がある。

(3) **ラルコ博物館 (Museo Larco)**

住所：Av. Bolívar 1515, Pueblo Libre (Tel：461-1312/1835/5640)

Home Page：<http://www.museolarco.org/>

開館時間：月～日曜日 09:00～22:00

入場料：大人30ソル, 学生・子供15ソル, 65歳以上25ソル (要身分証) , 8歳以下無料

ラファエル・ラルコ氏個人の蒐集したプレ・インカ及びインカ時代の土器やミイラを一般に公開している博物館。コレクション数4万5千点。「ペルー古代の金・銀・財宝展」が常設展としてある。修復過程の解説を含め、分かりやすい展示となっている。また、遺物収蔵庫は事項別に整理されていて一般の人の中に入ることができる。日本語の説明書きあり。

(4) **ペドロ・デ・オスマ美術館 (Museo Pedro de Osma)**

住所：Av. Pedro de Osma 423, Barranco (Tel：467-0063)

開館時間：火～日曜日10:00～18:00。月曜は休館日

入場料：大人30ソル, ペルー陣及びペルー居住者20ソル, 学生・定年退職者 (60歳以上)

10ソル（要身分証）

19世紀初めにスペイン・リオハ州よりペルーに移住してきたデ・オスマ家の子孫、ペドロ・デ・オスマ氏の所蔵していた作品を展示。デ・オスマ氏の旧邸宅を美術館の建物として使用。宗教画を中心とする絵画、彫刻、銀製品、家具、織物等を通じて、16世紀から19世紀にかけてのペルーの芸術作品を幅広く鑑賞することができる。

(5) **黄金博物館** (Museo Oro del Perú)

住所：Calle Alonso de Molina 1100, Monterrico, Surco (Tel：345-1292/1271/1271)

開館時間：毎日（1月1日、5月1日、7月28日、12月25日は休館）10:30～18:00

入場料：大人33ソル、子供（11歳まで）16ソル。

黄金のみならず、日本の鎧や日本刀を含め、世界の武器コレクション等もあり、全てを見るには2時間程度を要する。博物館外にあるお店での買い物のみなら入場料は必要ない。

(6) **日本人ペルー移住史料館** (Museo de la Inmigración Japonesa al Perú)

住所：Av. Gregorio Escobedo 803, Jesús María (Tel：518-7450 内線1062)

開館時間は月～金曜日10:00～18:00、土曜日10:00～13:00。日本語ガイド可。

日秘文化会館内にある。1979年の日本人ペルー移住80周年を記念して造られ、1981年7月15日から一般に公開されている。建設にあたっては、日本からの補助金、在ペルー日系人、日本進出企業、商社からの寄付金を受け完成した。日本人のペルー移住を伝え、日本・ペルー両国の歴史と文化を紹介するとともに、日本人ペルー移住に関する内外の文書、史料の収集や保管を任務としている。

(7) **旧国立博物館** (Museo de la Nación)

住所：Av. Javier Prado Este 2465, San Borja (Tel：476-9878)

開館時間：火～日曜日9:00～17:00

以前はペルーを代表する博物館であったが、現在は博物館としては残っておらず、特別展形式のギャラリーになっている。

#### 4. 遺跡

(1) **パチャカマック遺跡** (Templo de Pachacamac) (Tel：321-5606)

住所：Antigua Carretera Panamericana Sur Km. 31.5, Lurín

開場日：火～土曜日 09:00～17:00（入場は16:15まで）、日曜日 09:00～16:00（入場は15:15まで）。

入場料：大人15ソル、60歳以上7.5ソル（要身分証）、学生5ソル（要身分証）、子供（12歳まで）1ソル。ガイドサービス25ソル

パンアメリカン・ハイウェイを南下し約25キロを過ぎると、左側に小高い丘の上にある遺跡が見え始める。紀元前500年～1,000年くらいの間に創始された中央アンデス海岸最大の宗教センターであると言われ、その規模の巨大なことから3万～5万人の人口があったと見られている。15世紀にインカ帝国はこれを征服し、ここにインカの神である巨大な太陽と月の神殿を建造したが、先住民の信仰の対象である天地創造神パチャカマックの神殿はそのまま残されており、1535年スペイン人の侵略によって焼き払われ廃墟になるまでパチャカマック神に対する祭礼が行われ、各地から巡礼者が後を絶たなかったと言われる。

(2) **プルチュコの遺跡** (Ruina de Puruchuco) (Tel：494-2641)

住所：Carretera Central Km. 4.5, Ate

開場日：火～金曜日 08:30～16:00、土・日曜日 09:00～16:00

入場料：大人5.5ソル、学生2ソル。小学生1ソル。ガイドサービス20ソル

中央ハイウェイ(Carretera Central)7キロの地点より右手の小高い丘の上に見えるのがプルチュコの遺跡である。プルチュコ即ちケチュア語で「羽の冠」はおそらく12世紀

の頃リマック地方の酋長の宮殿であったと推測されている。インカにより征服されて以来、行政を司っていたと言われる。夏期には民族衣装を身に付けた芸能者が古典舞踊を舞い、訪れる観光客を楽しませてくれる。

(3) **ワカ・ワヤマルカ遺跡** (Huaca Huallamarca) (Tel : 222-4124)

住所 : Esquina con Av. El Rosario y Av. Nicolas de Rivera 201, San Isidro

開場日 : 火～日曜日09:00～17:00。月曜日は休み。

入場料 : 大人, 外国人5ソル, 学生3ソル, 5歳未満1ソル。

サン・イシドロ地区, El Rosario通りとNicolas de Rivera通りの角。リマ文化期(紀元200年～600年)初期の遺跡。祭祀センターとして機能していた。その後, リマ文化期後期, ワリ文化期(600年～1000年)以降は墓地として, インカ帝国期(1400年～1532年)には食料貯蔵庫として使用された。土器やミイラなどが同地博物館に展示されている。

(4) **ワカ・プクヤナ遺跡** (Huaca Pucllana) (Tel : 617-7138)

Mail : huacapucllana@miraflores.pe

住所 : General Borgoño Cdra. 8, Miraflores

開場日 : 月・水～日曜日 09:00～17:00 (水～日曜日19:00～22:00で夜の部もあるが, 見学できる所が限られる) 火曜日は休み。

入場料 : 大人12ソル, 大学生・12歳以下6ソル, 子供1ソル(日本語, 英語またはスペイン語のガイドを含む。ただし日本語ガイドについては, 常時いるわけではないので, 事前予約を勧める)。

ミラフローレス地区, Borgoño通り8ブロック。紀元前200年から紀元600年ごろに栄えたリマ文化の遺跡。現在も土器やミイラ, 織物などの発掘が続いている。発掘されたものは博物館に展示されている。レストラン(レストランは毎日12:00～16:00, 19:00～24:00で営業)もあり遺跡を見ながらペルー料理が楽しめる。

## 5. 飲食

ペルー料理は, 先住民の食文化が, 16世紀に来たスペイン人及びアフリカ系奴隷, 19世紀半ばに来たヨーロッパ移民, 中国移民(主に広東から), 1899年以降に来た日系移民の影響等を受けて今の形になった。また, 海岸地帯, 山岳地帯, 森林地帯と大きく3つに分けられるペルーの地理は実に多様に富み, その結果, 多様な食材がペルー人の食卓にもたらされている。

(1) **セビチェ** (cebicheまたはceviche)

代表的なペルー料理の一つ。魚の白身をレモン汁でしめ, 唐辛子や塩で味付けしたもの。茹でたサツマイモやトウモロコシと一緒に食べる。

【セビチェの歴史】その起源は定かではなく, 「セビチェは先インカ期のモチエ文化に由来する, 先祖代々伝わる料理である。」という説, 「ケチュア語で“新鮮”または“柔らかい”魚を意味する“siwichi”が語源」という説や, 「様々な肉をレモン漬けにするモーロ人の料理 seivech から生じた。」等の説がある。セビチェとは, 元々は, 海の幸を食べて生活していた海岸地帯の人々が, 果汁や唐辛子で味をつけて食べていたものである。その後, スペイン人の到来によりレモン, 玉ねぎ等がもたらされ, 現在の料理として完成した。

(2) **ピスコ** (pisco)

ブドウを発酵させ, 蒸留して作った酒で, ペルーの特産。リマより南のピスコ地方原産で, ルリン, サン・ビセンテ・デ・カニエテ, イカなど南海岸の谷間が生産がさかん。ストレート, ロックで飲むほかに, 卵白・レモン・砂糖を混ぜたピスコサワー, アルガロボ(紫紅色の花の咲くマメ科の木キャロブ)の蜜と混ぜた甘いアルガロビーナなど, カクテルにして食前酒にすることもある。

【ピスコの歴史】ピスコの人々はアルコール飲料を、ピスコと名づけられた容器に貯蔵していた。1553年スペイン人によってペルーの様々な地域にブドウの木がもたらされた。気候条件が合ったことと、先スペイン期からの素晴らしい帯水性の地盤構造のおかげで、ブドウの栽培は瞬く間にピスコの谷に広まった。スペイン人はワインとブドウの蒸留酒を保存するため、地元の陶工に、ピスコと名づけられた小さな土器の製造を依頼した。ピスコ酒は、1560年頃に、ヨーロッパと同質の辛口ワインを作ろうとした結果出来た偶然の産物であった。ピスコ酒は非常に好評だったので、その輸出量はワインを上回ることになった。

☆ ピスコサワー(pisco sour)の作り方

(ペルーを代表するピスコを使ったカクテルの一つ)

材料(グラス4杯分)

砂糖2分の1カップ, ガムシロップ適量, ピスコ225ml, 卵の白身1個分, レモン汁75ml, 氷, シナモン・パウダー

調理法

- ①ミキサーに砂糖, レモン汁, ピスコを加えよくかき混ぜる。
- ②それに氷を加え, 氷が無くなるまで, 『強』で30秒ほどかき回す。
- ③卵の白身を加えさらに, 『強』で1分ほどかき回す。
- ④グラスに入れお好みでビターズ, シナモンをかけて出来上がり。

## 6. その他

(1) **日秘文化会館** (Centro Cultural Peruano Japonés)

Av. Gregorio Escobedo 803, Jesús María (Tel:518-7450)

1967年5月12日開館。当時のペルー日本人社会の発意により建設された。皇太子同妃両殿下(当時)ご出席のもとに執り行われた。館内にはロビー, ホール, 会議室, 日本庭園, 応接室等があり, 日本語講座や各種文化講座が開かれているほか, 最近ではペルー人, 日系人により種々の会合, 展示会, 講演会開催等に利用されている。会館内には, 日本人のペルー移住の歴史を示す資料を展示した移住史料館のほか, 日秘劇場(1025席), 大ホール(350名収容), 大小会議室, 展示室, 図書室, 茶室, 食堂, 道場がある。また, 併設された日秘診療所には, 日系, 非日系を問わず, 多くの人々が来訪している。

(2) **ラ・ウニオン運動場(アエル)** (Asociación Estadio "La Unión" / AELU)

Av. Paracas, Cuadra 5, Pueblo Libre (Tel:261-1221/461-0585)

1953年11月8日, 当時のペルー日本人社会の発意により開設された総合運動場。敷地は9万7,302平方メートルを有し, 施設はサッカー競技場兼陸上競技場(トラック1周400メートル), 野球場, バレー, バスケット競技場, 50メートル競泳用プール, テニスコート等である。現在では, 毎年4月~5月に都道府県人会や日系校を含む日系人団体が一堂に会して盛大な運動会を, また, 11月には一般のペルー人も多く参加する「祭」が開催されている。

(3) **闘牛** (Corrida de Toros)

Jr. Hualgayoc 200, Rimac

1765年に建設されたアチャョ闘牛場(Plaza de toros de Acho)は, 1945年に土台と外観を昔のままに復元したもので, 収容人員は1万2,500人。ペルーにおける闘牛は, 植民地時代の1538年にアルマス広場で開催されたのが始まりである。

シーズンは10月で, フェリア・デ・オクトゥブレ(宗教に因んで毎年催される10月の祭りで, 主な行事は奇跡の神の山車, 闘牛, 特別競馬, 各種展覧会等)の行事の一つである。このシーズンには, スペインから国際的に有名な闘牛士が招かれる。

## III. 参考情報

## 1. 言語

ペルーの公用語はスペイン語である。ケチュア語、アイマラ語等の先住民の言語も一部地域では公的使用が認められている。英語は、空港、高級ホテルの受付や上層階級の一部で通じる程度で、街ではほとんど通じない。

## 2. 通貨及び両替 (2021年2月：1米ドル＝約3.636ソル)

(1) 通貨単位はソルで、1ソル＝100センチモ。流通通貨の種類は次のとおり。

<紙幣>200/100/50/20/10ソル

<硬貨>5/2/1ソル, 50/20/10センチモ

(2) 当国ではドルが使えるところが増えてきており、レートを気にしなければ、多くの買い物は米ドルでもできる。ソルへの両替は銀行、ホテルでもでき、レストラン、スーパー等ではドルで支払うとソルでお釣りが返ってくる。ただし、スーパーでは20ドル紙幣までしか受け付けてもらえない。ホテルのチップ等もドルで支払える。なお、日本円をソルまたは米ドルに両替できる場所は限られている。当国の為替は変動相場制である。

(3) クレジットカードはホテル、中級以上のレストラン、土産物店などで利用可。但し、民芸品市場等でのクレジットカードの使用はスキミング等の危険であるので避けた方がよい。主に利用されるクレジットカードはアメリカンエキスプレス、ビザ、マスターカード等。カードを利用する際、身分書の提示を求められることがあるので、パスポートを携行する必要がある。

## 3. 治安

財産を目的とした一般犯罪が多発しているため、市内を歩くときは、強盗やスリ、ひったくり、置き引き等に十分注意する。特にスマートフォンは主なターゲットの一つであることから、歩きながらの使用は言うまでもなく、人目の付くところで安易に使用することは避ける。

日本人旅行者の増加に伴い、空港及び周辺でのトラブルや市内での窃盗、スリの他、パスポートの盗難等の被害に遭う旅行者も増加している。特に夜間の一人歩きはできる限り避け、数人で行動をとることが望ましい。目立つ服装は控え、金目の物を目に付くような形で身につけない方がよい。貴重品は常に携行するか、鞆に入れて施錠の上、ホテル内の鍵のかかるセーフティボックスなどに入れておくのが安全。パスポートなどの身分証明書は常に所持しておくこと。偽タクシーが乗客から金品を強奪するケース等もあるので、タクシーの選定には十分な注意が必要である。犯罪に巻き込まれてしまったら、絶対に抵抗せず、犯人の指示に従うこと。犯人は金目のものが手に入れば満足して立ち去る場合が多く、下手に抵抗して発砲や暴行を受ける被害が増加している。

## 4. 交通

### (1) 空港から都心までの交通

空港は都心から約15キロの地点にありタクシーで約40～60分かかる。税関検査場を抜けてすぐのカウンターでタクシーを手配してもらうと50～70ドルかかるが、これが最も安全とされている。更にもう1つ扉を抜けたところにタクシーグリーン (Taxi Green) のブースがあり、市内までは行き先に応じて50～60ソル程度。流しのタクシーであれば30ソル前後であるが、日本からの便は深夜到着の便が多く、タクシー強盗等の犯罪に巻き込まれるケースもあるため、流しのタクシーや運転手が客引きをしているタクシーは絶対に利用しない。)

### (2) 旧市街から大使館までの交通

タクシーで約30分かかり、料金は約15～20ソル (約6ドル) 程度 (ホテルに詰めているタクシーは割高であるが安心。))。

### (3) 市内交通

タクシー、コンビ (乗り合いのバン)、バスが主要な交通機関である。

#### (ア) タクシー

タクシーにはメーターが無く、市内の流しのタクシー料金は事前交渉によって決めら



れるため、土地勘がなかったり、スペイン語が話せないと利用しにくく、割高な料金を要求される場合が多い。また、流しのタクシーは運転も荒い。タクシー利用の際は、多少割高になるがホテルに詰めているタクシーか、ラジオタクシー（無線タクシー）を利用すると良い。また、ほとんどのタクシーはドルではなくソル払いしか受け付けない。

ホテルやレストランでタクシーを呼んでもらうのが良いが、自分でラジオタクシーを呼ぶ場合は、「乗車日時、乗車場所、降車場所、乗客者名、連絡先」をオペレーターに伝えて予約をする（数日前から予約可能）。24時間対応。

**【ラジオタクシー連絡先】**（主にスペイン語のみ）

- ・ タクシー・サテリタル Tel:355-5555（利用時間の15分前からしか頼めないが、通常は15分以内に到着する）
- ・ タクシー・セグロ Tel:415-2525（ソル支払いのみ）
- ・ タクシー・ミツ Tel:261-7788（英語可。ハイヤーのため、料金が非常に割高）
- ・ アロー・タクシー Tel:217-7777（英語可）

**【空港内ラジオタクシー連絡先】**

- ・ CMV TAXI Tel:517-1891（料金が最も高い。空港内でなくても予約手配可能。）
- ・ MITSOO. S.A. Tel:517-1893
- ・ TAXI GREEN Tel:484-4001（最も廉価。行き先別に料金は固定されている）

(イ) コンビ及びミクロ

コンビと呼ばれる乗り合いのバン及びミクロと呼ばれるバスは路線と行き先が非常にわかりにくく、行き先も不規則なため、土地勘がなかったり、スペイン語を話せないのであれば利用を避けること。またスリや強盗、一時誘拐も多発しており、利用にあたっては十分に注意する必要がある。

(ウ) メトロポリターノ

2010年からリマ市内にバス専用レーンを走るメトロポリターノが開通した。上記のコンビ及びミクロとは異なり、路線も行き先もわかりやすく、車内設備も非常に整っている。1回の料金はどこまで行っても2.50ソルであるが、事前にプリペイド式の乗車カード（5ソル）を購入する必要がある。乗降は定められた駅にて行う。

**5. チップ**—大体の目安は次のとおりである。

- (1) 空港でポーターに荷物を運ばせた場合は1ドル程度、ホテルでは荷物が多く運ぶ距離が長い場合にはボーイに1ドル程度を渡す。
- (2) ホテルでのルームサービスの場合は、1回につき1ドル程度、飲み物1つについても同程度を目安に渡す。
- (3) 部屋の掃除人には、毎朝1ドル程度をベッド脇のスタンドなどに置く。
- (4) レストランでは、義務ではないが、サービスの質に応じて勘定の5~10%程度を置くのが適当である。請求書にサービス料が込みの場合でも、ボーイへのチップとして小銭（数ソル程度）を置いてもいい。

**6. 土産**

ペルーには特有の様々な土産があり、値段も安く購入できるものが多い。

- (1) **銀製品**：銀製品を買うときは、製品の裏に刻印（※）もしくは「925」等純度が押してあるものを選ぶと良い。
- (2) **民芸品**：先住民が手作りしているものが多い。ワイルーロという赤と黒の実を使ったものがオススメ。この実はペルーでは幸運のお守りとされている。
- (3) **アルパカ製品**：セーター、マフラー、手袋、毛布等バラエティーに富んでいる。他にもリャマ製品、ビクーニャ製品（日本で購入すれば4倍以上の値段がする、最高級品）がある。
- (4) **folklore音楽**：楽器（ケーナ、サンポーニャ、チャランゴ、カホン等）やCD等

も人気がある。

- (5) **お酒**：ピスコ（スーパー及び空港でも購入可。）、ペルー・ワイン、その他アルゼンチン・ワインやチリ・ワインもある。アメリカ行きの便には、たとえ空港内で購入したもので液体類やペースト類は持ち込めない（搭乗ゲート前で荷物チェックがある。）。アメリカ経由で本邦へ行く場合等は、液体類は空港外で購入し、預け入れ荷物に入れる必要がある。
- (6) **コーヒー**：ペルー豆を使ったコーヒーはスーパーで購入可。スターバックスでは日本で扱っていないブランドのペルー産コーヒー豆を売っている。
- (7) **お菓子**：ピスコの入ったチョコレートや、アルファホール(alfajor)という柔らかいビスケットの間に牛乳で作られた甘いクリームが挟まれた一口サイズのお菓子があり、スーパーで購入可。ピスコ入りチョコレートは空港でも売っている。
- (8) **その他**：マカ（細胞活性化・精力剤）、ウニャ・デ・ガト（Uña de gato：ガン予防に効果があるとされる）、カムカム（ビタミンC豊富）等ペルー独特の様々な錠剤を薬局等で売っている。キヌア、サチャインチオイル等、日本で健康食品として人気のものも豊富。ココ茶等は日本や経由地で問題になるため買わないよう注意。

☆土産店リスト（※営業中かは要確認）

アルパカ製品	住所	TEL	
KUNA by ALPACA111	Centro Comercial Larco Mar 内 Av. Malecón de la Reserva 610 Larcomar local 1-07, Miraflores	447-9842	高級アルパカ製品を扱っている。種類が豊富で、デザインの良いものも多いので、おみやげにも向いている。マフラー\$50~。日本では数倍の値段がする、最高級のビクーニャの毛を使ったマフラー、ストール、ショールなども扱っている。そのほかアレキパ、クスコ、プーノにも店があり、アレキパには本店とアウトレットがある。 <a href="http://www.kuna.com.pe/">http://www.kuna.com.pe/</a> (オンラインストアあり)
	Av. Larco 671, Miraflores	447-1623	
	Av. Jorge Basadre Grohmann, No. 380, San Isidro	440-2320	
	Aeropuerto Jorge Chávez (空港内に2店舗)	517-3206	
	Museo Larco Herrera Av. Bolívar, No. 1515, Pueblo Libre	460-2302	
ALL ALPACA	Av Jose Larco 1005, Miraflores	421-4578	アルパカ製品の店。
	Schell 375-377, Miraflores	446-0565	
MON REPOS	Hotel Meliá Av. Salaverry 2599, San Isidro	441-0726	お店はそれほど種類が多くないが、工場は規模が大きく種類も多い。値段も店より手頃である。モダンなものは少ない。
	Centro Comercial Camino Real Nivel A Tienda 94, San Isidro	221-5331	
	Av. Los Tucanes Mz T2-Lt. 1-2 CPM Santa Maria de Huachipa (工場)	371-0342	
ROYAL ALPACA	Hotel Marriott	446-3084	商品は欧米や日本にも一部輸出されている高級アルパカ衣料品店。
	Av. La Paz 324, Miraflores	444-3566	

<b>BAZAR NAKAYAMA</b>	Av. La Paz 324, Miraflores	444-3566	ペビーアルパカ・アルパカの毛糸を買うことができる。セーターなども取り扱っている。日本語可。
<b>銀製品</b>	住所	TEL	
<b>CAMUSSO</b>	Jr. El Polo N° 670 Tda. B-208 Centro Comercial – Polo Plaza – Santiago de Surco	637-4030	ペルーでも歴史の古い高級銀製品販売店。家庭用品に特化している。
	Av. Rivera Navarrete 788 Tda. 601-A – San Isidro	637-3810	
<b>ILARIA</b>	Av. Dos de Mayo 308, San Isidro (本店)	512-3530	ペルーを代表する銀製品のお店。アクセサリーに特化しているが、食器やインテリア用品、男性用や赤ちゃん用の商品も豊富なため、おみやげや贈り物に非常に向いている。
<b>ILARIA Joyería MIGUE Artesanías MIGUE</b>	Aeropuerto Jorge Chávez (空港内に3店舗)		ペルーを代表する銀製品のお店。アクセサリーに特化しているが、食器やインテリア用品、男性用や赤ちゃん用の商品も豊富なため、おみやげや贈り物に非常に向いている。 Camusso より随分値段は安い。それでもアクセサリー、置物、ティーセット・銀皿等、質のよいものが多い。館員夫人でも利用している人は多い。
	Centro Comercial Larco Mar 内 Av. Malecón de la Reserva 610 Larcomar local 1-07, Miraflores		
	Los Eucaliptos 590, San Isidro (Hotel Country Club 内)	440-4875	
	Via Central 150 Centro empresarial Real, San Isidro (Swissotel 内)	422-2146	
<b>Joyería MIGUE Artesanías MIGUE 民芸品等</b>	Av. La Paz 344, Miraflores	241-1145	Camusso より随分値段は安い。それでもアクセサリー、置物、ティーセット・銀皿等、質のよいものが多い。館員夫人でも利用している人は多い。
	住所	TEL	
<b>MERCADO INDIO</b>	Av. Pettit Thouars 5245, Miraflores		多くの商店が市場のように立ち並んでいる。日曜日も営業している。アルパカ製品は ROYAL ALPACA の価格の5分の1だが、品質も劣る。銀製品も CAMUSSO に比べると安いが輝きが違う。クレジットカードが使える店もあるが、安全面からできれば避けた方がいい。また、現金の方が値引きできるのでソル通貨を持参すると良い。
<b>POCO A POCO</b>	Jr. Putumayo 275, San Miguel (Av. La Mar 2358)	452-1112 452-0404 (要事前 連絡)	日本人オーナー早内夫婦が経営する店。リヤマをかたどった銀や金の耳かきを取り扱っている。また、夫人の染めたアルパカ 100%のショールは人気で、日本のテレビにも紹介された。現金の場合値引きあり。

<b>Imagina &amp; espacio A</b>	Av. Diez Canseco 378, Miraflores	243-3743	日本人 (Yuko Barbaran) オーナーのお店。チャンカイ遺跡の図柄を使ったお土産が面白い。
<b>El Pórtico</b>	Jr. Junín 358, Barranco	249-4012	日本人 (Yuko Barbaran) オーナーの雑貨屋。ペルーのお土産で定番の小物やお菓子も扱っている。日本人観光客向けでもあるので、オリジナル携帯ストラップもある。
<b>一般お土産</b>	住所	TEL	
<b>Britt Shop</b>	Aeropuerto Internacional Jorge Chavez (リマ空港), Westin Lima Hotel, Marriott Lima		空港や高級ホテル等に出店しているお土産屋。コスタリカ発祥で、中南米各国の空港を中心に店を出している。主力製品はチョコとコーヒーであり、空港内のお店で試食や試飲ができる。国際的なチェーンだが、チョコとコーヒー以外にも出店先の国ならではのお土産を取り扱っており、当地のお店ではペルーの一般的なお土産も売っている。あまり凝ったものは期待できないが、一般的なお土産というレベルでは、かなり幅広い製品が揃っており、簡単なものは割と手に入れることができる。リマ空港内に複数の店舗がある。

## 7. 主要航空会社電話番号

### 国際線

アメリカン航空	Tel: (01) 211-7000
ユナイテッド航空	Tel: (01) 0-800-700-30, (01) 712-9230
コパ航空	Tel: (01) 610-0808
デルタ航空	Tel: (01) 211-9211
アビアンカ航空	Tel: (01) 511-8222
エアカナダ航空	Tel: (01) 0-800-520-73, (01) 241-1457
ラタム航空	Tel: (01) 213-8200
アエロメヒコ航空	Tel: (01) 705-1111, 0800-53-407

### 国内線

スターペルー航空	Tel: (01) 705-9000, (01) 211-8813
アビアンカ航空	Tel: (01) 511-8222
LCPeru 航空	Tel: (01) 619-1313
Peruvian 航空	Tel: (01) 716-6000, (01) 715-6123

## 8. その他の注意事項

- (1) 生水は飲料に適さないので、ミネラルウォーターを購入する。炭酸入り (con gas : コンガス) と炭酸無し (sin gas : シンガス) の二種類ある。また、最近は味付きで無色の飲料もあるので購入時には注意。
- (2) 郵便はホテルのカウンターで受け付けてくれる。
- (3) リマから飛行機でクスコ、プノ、チチカカ湖、カハマルカ等標高2,000m以上の高地に行く場合、高山病になる可能性があるため、予防薬 (Acetazolamide: アセタゾラ

- ミド)を内服することが望ましい。
- (4) 日本との時差は-14時間。国内時差と夏時間はない。
  - (5) ペルーの電圧は220ボルト, 周波数50Hzである。プラグは平型と丸型の併用タイプで, 日本型もそのまま使用できるが, 電圧の差異に注意。

## **9. 大使館の所在地**

### **在ペルー日本国大使館 (Embajada del Japón)**

Av. Javier Prado Oeste 757 Piso 15, Magdalena del Mar, Lima (Tel : 219-9500 Fax : 498-0930)

(了)